

# 在宅介護支援制度のその後

## 質問

在宅寝たきり者等介護手当費の充実に訴えて一年が経過しましたが、現況にどのように対応しているのか。また今後の方向として増額は考えられないか、また直接家族の声を聴く機会を持ったのか伺う。

## 町長答弁

議員は増額を訴えておりますが、制度の充実が進む中、実施している他町村で廃止をしているところがある。町は当面現況で継続して行きますが、将来的には見直しも考えて行く。家族の声に耳を……ですが、民生員・ヘルパー等の聴き取り調査の報告によって現状は承知するところですが、大変などの声は訴え



今村 定一

られていないと承知している。

## 質問

自ら声を聴かない姿勢に不満がありますし、制度の見直しも考えているとは、到底承知できない話である。介護制度が充実にきたとはいえ、介護者についてのケアまた制度は不十分である。町独自の支援は継続するべきである。

## 町長答弁

見直すに至っては検討もするし声も聴いていきます。

## 歴史民俗資料館(雪国館)の充実に

## 質問

資料館もオープンして久しい。時代の流れにマッチした町独自の歴史民俗資料館として維持するならば、見て、学んで、体験でき、感動を与え、現代の子供・親に共感を与えられる資料館であって欲しい。絵画の問題も含めて今後の資料館のあり方を伺う。

## 町長答弁

生活様式などの民具の展示はどこにでもある。湯沢には川端康成の「雪国」の地であることに関連絵画の常設展示によって内外にアピールしていく。

## 質問

姿勢の一端に資料館に絵画館が垣間見られますが、歴史民俗資料館としての使命を今後どのような形にして意義を高めて行くのか、倉庫に眠っている民具や資料の活用等も含めてどう考えているのか。

## 町長答弁

歴史民俗資料館としても充分考えている。展示の方法や体験等も検討し時代にあった「雪国館」を作って行く。

## 川上四郎童画と美術館建設の絡みについて

## 質問

川上四郎の情緒豊かな表現を童画として町のシンボリック存在に位置付けて育てていますが、童画展の継続や美術館建設を考えた時に、町の考え方に疑問が感じられます。2つの問題につ

いて町の姿勢・考え方をハッキリとすべきではないですか。

## 町長答弁

建設検討準備委員会を年度内に開き、建設そのものも含め検討していただく考えでいます。川上家との交渉過程において多くの問題もあり、答弁できる現状でないことを承知願いたい。

## 体験工房「大源太」の現状と今後の運営の付加価値増大の策は

## 質問

オープン後の従業員の労苦に拍手を送ると共に今後の利活用を大いに期待をしたいと思えます。補助金対象の施設とあつて何かと制約があるなかで、自立できる運営手段について伺う。

## 町長答弁

オープンした7月が2千608人、8月約5千人が来場、一日平均160人の体験者があつた。半数がソバ打ち利用者で、新ソバの時期を楽しみにしていると言う。①棟内での土産を含む物販販売は出来ないが、棟外販売を視野にソバ殻を利用した土産品の開発を進めている。規制緩和はその都度協議して行く。②雪深い里で一般利用者の期待は難しいが、学校関係団体等の受け入れは考えて行く。③農園については4区画の利用者(東京2人・神奈川1人・千葉1人)である。来春には多くの利用者が期待できると思う。管理や指導を含め地元民との関わりは考えて行きたい。



体験工房「大源太」体験工房大源太の付加価値対策と冬期の活用をどう考えているか

一

般

質

問